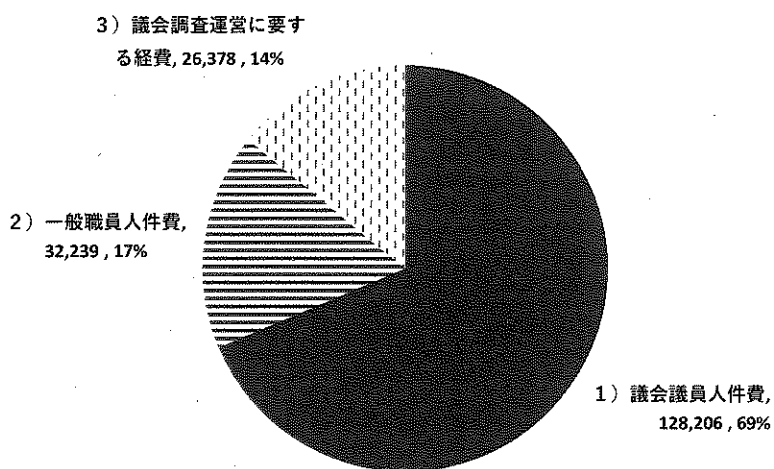


白井市令和4年度当初予算 議会費内訳

(千円)

区分	額	割合	備考
1) 議会議員人件費	128,206	68.6%	議員報酬、手当等
2) 一般職員人件費	32,239	17.3%	事務局給料、手当等
3) 議会調査運営に要する経費	26,378	14.1%	議場システム委託費、システム使用料等
計	186,823	100.0%	

議会費内訳



第3回会議で委員から出された意見要旨

<p>【委員1】 ○報酬を上げることに賛成。現状はとも良い。ただ、議員定数も他市と比較すると多い。その点、理に合った説明がつけば報酬を上げることが良い。</p>	<p>【委員2】 ○報酬を上げるのは、やはりさかではない。財政上問題なければ良いが、定数を1名減らすなど検討していければいいのでは。</p>	<p>【委員3】 ○定数を同じく、報酬を上げることは賛成。1人1人の議員の活動がもう少し見えるようになれば若い世代も市政へ参加する人が増えるのではないかと。</p>	<p>【委員4】 ○議員数が多いのは一目瞭然。 ○報酬を上げるなら人数を減らさないと。 ○報酬を上げることでの不足の解消になるのか。人数を減らしても多様化に対応できるのか。 ○議会費割合に目標を立てては。</p>
<p>【委員5】 ○議員に優秀な人になってもらうのが難しい。 ○現在の議員の属性は、無職2名、その他18名だが、議員報酬の他に収入があるのか（議員専業か兼業か）が気になる。 ○他に収入があるのなら単純に上げるというのではないのかも。</p>	<p>【委員6】 ○報酬を上げることでの手不足解消となるのか。議会費の割合をどう考えるのか。これか議論のポイント。 ○現状の約510万円の年収では、サラリーマンで年収700万円ペースの人や市内世帯の半数の年収510万円以上の人には議員になると思うだろう（生活費、固定費は決まっているので。この状況は解消すべきでは。</p>	<p>【委員7】 ○財政上安定しているので、報酬を上げることに賛成。人数の話を入れると何か適正なのかといったところで議論としては難しい。 ○人数は、これまでの歴史的な背景などもあるかもしれないので、財政規律の範囲で上げることには賛成。上げて優秀な人材の募集につながるかと。</p>	<p>【委員8】 ○報酬を上げることで優秀な人が来るとは限らないが、民間では少ない給料で優秀な人は集まりづらいという実態はある。 ○できるだけ優秀な人が集まりやすくするという観点から報酬を上げた方がいいのでは。しかし、議会費としてお増額となるので、キックオフをはめた議論とすることか大事では。報酬の増にはサービスの質の向上を求めるのが大事では。</p>

【まとめ】

- ・報酬を上げることについては、概ねの賛成の意見があった。
- ・一方で、ただ上げるだけではなく、市民の納得が得られるような条件付けが必要という意見があった。

■論点整理■

- ①報酬額を上げる場合、額をどうするか。
- ②議会費の割合をどうするか。
- ③議員定数をどう考えるか。 など